



# 石清水八幡宮駅周辺 グラウンドデザイン

2026



# 市長からのメッセージ

## 「石清水八幡宮駅周辺グランドデザイン」の 策定にあたって

本市は、石清水八幡宮の門前町として、長い歴史の中で多くの人々を迎え入れてきました。

三川合流の稀有な自然環境と千年を越える歴史文化が重なり合うこの地には、訪れる人の心を惹きつける魅力があり、その魅力には、大きな可能性があると感じています。

本グランドデザインは、石清水八幡宮駅周辺の歴史・文化・自然といった地域資源を活かしながら、暮らす人、訪れる人にも心地よいまちを実現するための未来の指針となるものです。

このまちづくりの主役は市民の皆さまです。市民、事業者、関係する皆さま一人ひとりの思いと行動が重なり合うことで、まちは大きく動き出します。

悠久の歴史を受け継ぎながら、これからの人々の暮らしを暖かく照らし、新しいにぎわいを生み出すまちへ。今、私たちは、新たな一歩を歩みだそうとしています。

このグランドデザインを出発点として、多くの方の参画・行動によって新たな交流や活動が生まれ、地域の魅力をさらに輝かせ、発展させていくことを期待しています。

さあ、ここから次の世代へつなげるまちづくりをはじめましょう。

令和8年3月



八幡市長

川田翔子

# 目次

市長からのメッセージ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

## 第1章 グランドデザイン策定の経緯

- 1 | グランドデザインの策定経緯と目的・・・・・・・・・・ 4
- 2 | グランドデザイン策定の手順・・・・・・・・・・ 5
- 3 | 上位計画・関連計画との関係性・・・・・・・・・・ 6

## 第2章 地域の現況

- 1 | 石清水八幡宮を中心とした歴史(まちの成り立ち)・・・・ 8
- 2 | 歴史資源・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- 3 | 豊かな自然・環境保全・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- 4 | 観光の現況(観光資源・地域イベント)・・・・・・・・ 11
- 5 | 石清水八幡宮駅周辺を起点とした広域観光・・・・・・・・ 12
- 6 | 土地利用状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
- 7 | 交通の現況(交通ネットワーク・アクセス)・・・・・・・・ 14
- 8-1 | 市民の思い(過去に実施した市民アンケート・パブリックコメントより) 15
- 8-2 | 市民の思い(シンポジウム、市民ワークショップ、パブリックコメント) 16
- 9 | 社会潮流や変化の兆し・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

## 第3章 まちづくりの方向性・実現したいシーン

- 1 | まちづくりの方向性・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
- 2 | ゾーンごとの方向性・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
- 3 | 将来まちで実現したいシーン・・・・・・・・・・・・ 26

## 第4章 今後の進め方について

- 1 | グランドデザインの実現プロセス・・・・・・・・・・・・ 36
- 2 | 行政・市民・事業者の役割分担・・・・・・・・・・・・ 37

用語集・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40

「石清水八幡宮駅周辺まちづくり検討有識者懇談会」  
委員の先生方からのメッセージ・・・・・・・・・・・・ 44

第1章

グランドデザイン策定の  
経緯

# グランドデザインの策定経緯と目的

## 策定経緯

石清水八幡宮駅周辺は、かつて石清水八幡宮の門前町として栄え、市の玄関口としての役割を果たしてきました。しかし、現在では人口減少や少子高齢化、乗降客数の減少、店舗閉店などにより地域の活力が低下しています。

一方で、訪日外国人の増加や広域交通網整備などに伴い、八幡市の持つポテンシャルは今後向上していくと考えられます。

このような背景を踏まえながら、市民・事業者・行政等が長期的な視点のもと次世代を見据え、議論をし、まちづくりを進めていくことが求められます。そこで、市民の皆さまの意見やアイデアを踏まえ、市の玄関口にふさわしい駅周辺の目指すべき将来像を示す「石清水八幡宮駅周辺グランドデザイン」を策定します。

## グランドデザインの目的

ともに歩む 未来への(光の)みちしるべ  
— 石清水八幡宮駅周辺グランドデザイン —

旅人を導き続けてきた「道標(みちしるべ)」——

東高野街道の沿道には、

その「道標」が人々を目的地へと導いてきた歴史があります。

本グランドデザインは、未来への道のりを示す

「みちしるべ」としてまちの歩みを導き——

さらに、その先に描く将来の姿にあたたかい光をあてる

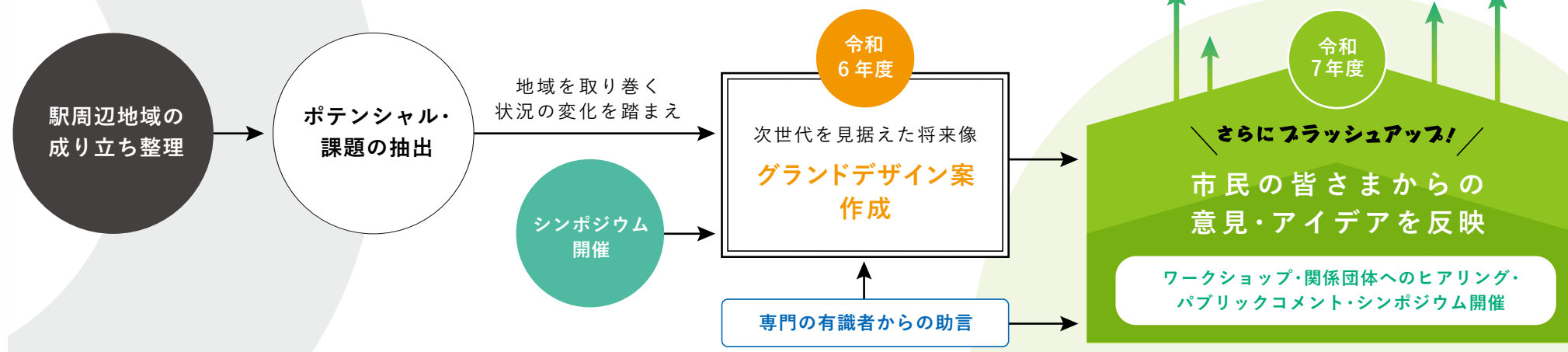
「サーチライト」として、市民の皆さまとともに歩む

未来を照らし出します。



## ランドデザイン策定の手順

### ランドデザイン策定の流れ



### 将来像の設定に向けたステップ

ランドデザインの策定にあたり、下記のステップで検討し、石清水八幡宮駅周辺の将来像を設定しました。

#### STEP 1

門前町としてにぎわった歴史、石清水八幡宮を中心とした歴史資源、豊富な自然環境などの数え切れないほどのポテンシャルを秘めた地域であることを再認識し、さらに新たな地域の魅力や特徴を発見する。

#### STEP 2

石清水八幡宮駅周辺における各ゾーンの特徴を再確認し、ゾーンごとの特徴・景観を最大限に生かした将来像をイメージする。

#### STEP 3

将来、各ゾーンで実現したい具体的なシーンを想像する。また、自分がやってみたいこと、できそうなこと、次世代に向けて地域の魅力アップになることをイメージする。



第2章

地域の現況

# 石清水八幡宮を中心とした歴史(まちの成り立ち)

古代の息吹を感じる八幡  
＜古墳時代頃＞



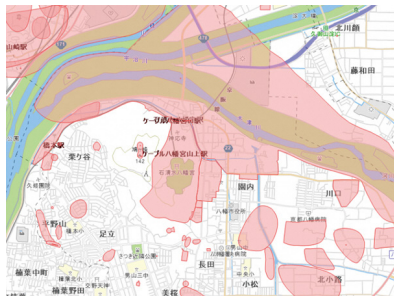
石清水八幡宮の遷宮と発展  
＜平安時代頃＞



石清水八幡宮周辺の発展  
＜平安時代～江戸時代頃＞



時代の目撃者 戦災と度重なる水害  
＜江戸時代末期～明治～昭和頃＞



上:西車塚古墳  
下:埋蔵文化財包蔵地(遺跡)

※赤色着色部[京都市・市町村共同統合型地理情報システム(GIS)より]

男山丘陵周辺では後期旧石器時代から人類の足跡が認められており、男山には多くの古墳が造られました。

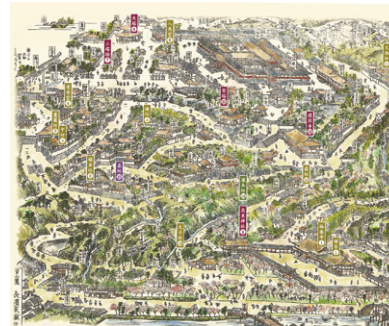
その中でも、男山の東裾に古墳時代前期から中期に造られた西車塚古墳、東車塚古墳が有名で、史跡指定された西車塚古墳は木津川左岸最大の前方後円墳です。



石清水八幡宮境内全図(八幡四境図)[山上山下南側部分]＜石清水八幡宮>蔵>(1751年)

八幡市域にとって歴史上最も大きな出来事である石清水八幡宮の成立は、縁起「護国寺略記」(石清水八幡宮文書・重要文化財指定)によると、貞観元年(859)、大安寺の僧侶・行教が宇佐八幡宮で、都の近くに寄り都を守護するとの神託を受け、男山山頂に「八幡大菩薩」を勧請、翌年朝廷によって社殿が造営されたと伝えられています。

八幡神は奈良時代末には菩薩号を名乗られ、以降「八幡大菩薩」と広く尊称されるようになります。石清水に遷座する頃には、完全に仏教との習合が行われており、明治維新まで「石清水八幡宮寺」と称されました。



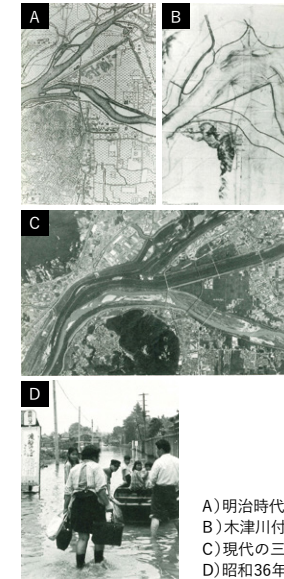
木版墨刷「城州八幡山案内絵図(1866年)」に着色(八幡市商工観光課作成)

朝廷から厚い信仰を受けた石清水八幡宮は、源氏をはじめ、代々の武家の棟梁に手厚く遇されました。

また、天下統一を目指す織田信長が、「黄金の樋」を寄進したと『信長公記』に伝わります。その他、豊臣家・徳川家等、天下人たちから篤く信仰されました。

平成28年2月に国宝に指定された石清水八幡宮本社は、三代将軍・徳川家光により建てられました。

江戸時代に「八幡八郷」といわれる社領地は室町時代頃までに形づくられたようです。街道沿いに神人や商人の住居も多く立ち並んでいました。



A) 明治時代の地図  
B) 木津川付替絵図(江戸時代)  
C) 現代の三川合流地点  
D) 昭和36年6月の水害

京街道と東高野街道が交わる要衝であるがゆえに、度々戦乱の舞台となり、幕末の鳥羽・伏見の戦いでは戦火に巻き込まれ八幡の町の大半が焼失しました。また、神仏分離令と廃仏毀釈により仏教施設のほとんどが撤去や移転を余儀なくされました。

さらに、相次ぐ水害に悩まされる地域でもありました。



現代  
＜昭和～令和頃＞



三川合流域から南方を撮影(2022年)

そして現代では、石清水八幡宮の南方にある男山丘陵において日本住宅公団(現都市再生機構)の団地が昭和40年代に整備される等、都市化が急速に進展しています。





# 観光の現況(観光資源・地域イベント)

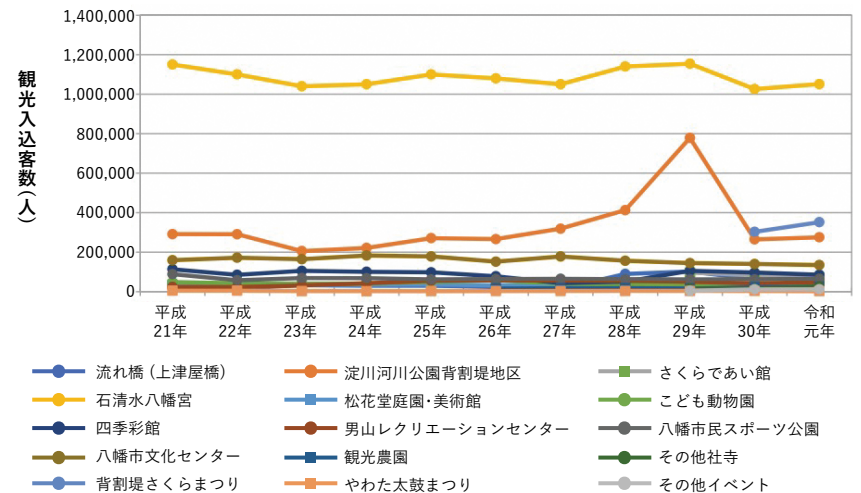


出典:八幡市観光基本計画

## 歴史×自然による豊富な観光資源

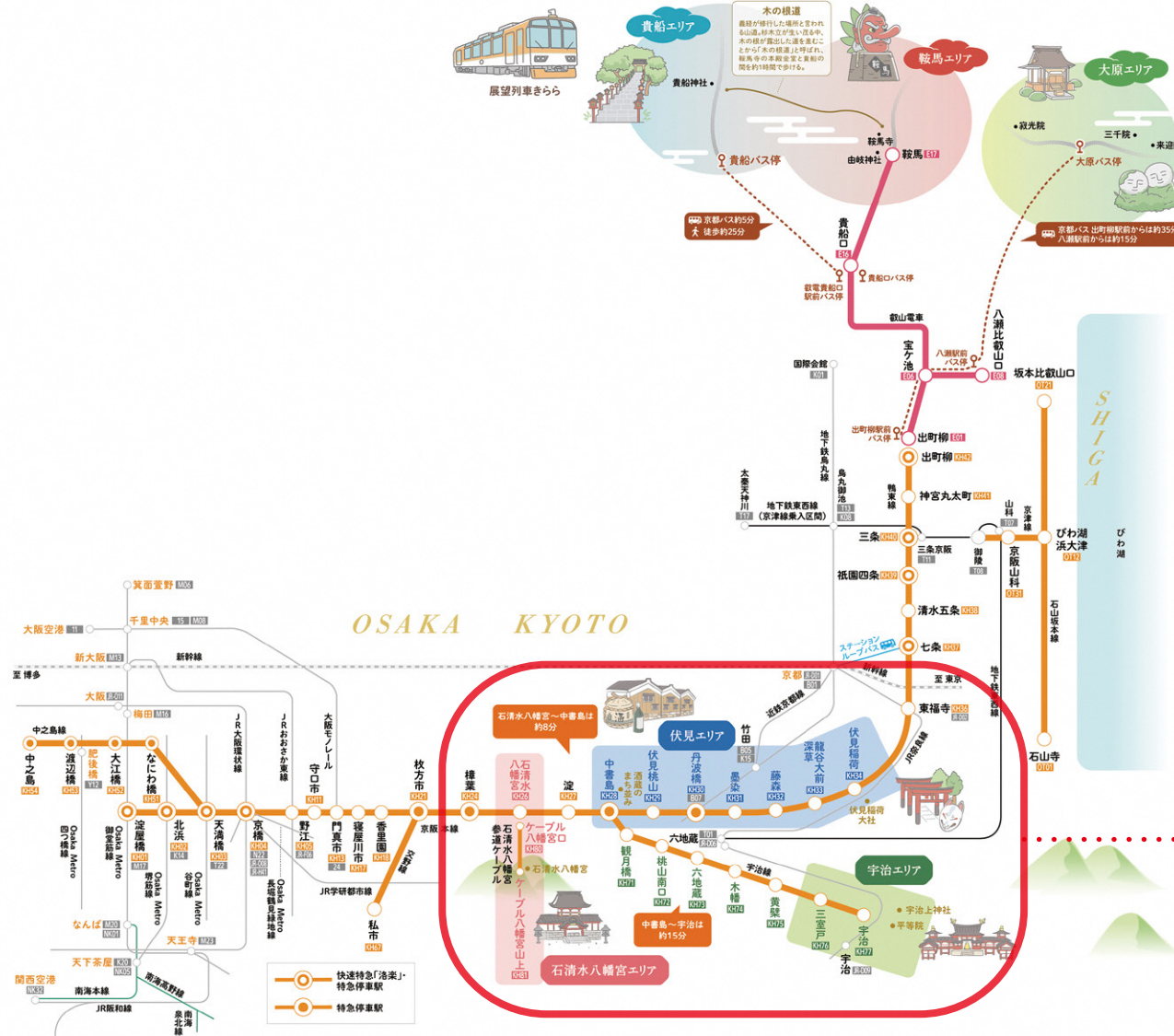
- 石清水八幡宮駅を中心に、高良神社、飛行神社、単伝庵(らくがき寺)などの多様な神社仏閣が立地
- 関西有数の桜の名所である背割堤には毎春に約20万人が来訪
- 木津川・桂川沿いをサイクリングロードである京奈和自転車道、淀川沿いを淀川リバーサイドサイクルラインが通り、石清水八幡宮駅前の「レンタサイクル館」で自転車の貸し出しが可能
- 石清水八幡宮の神事や伝統的なお祭り、やわたの竹に関する地域イベント、季節イベントが開催
- 通年の観光入込客数が減少傾向にあり、石清水八幡宮以外への観光入込客数が比較的少なく周遊観光に課題(R6八幡市観光基本計画)
- 京阪電車で宇治・伏見とつながり、乙訓地域、大阪府とも隣接することから、広域的な周遊観光の拠点となるポテンシャルがある

観光施設別観光入込客数の推移



出典:八幡市統計書

# 石清水八幡宮駅周辺を起点とした広域観光



## 豊富な観光資源を有する 京阪電鉄沿線

- 京阪電車の沿線には、石清水八幡宮をはじめ豊富な歴史資源が立地している
- 石清水八幡宮を有する「石清水八幡宮エリア」、伏見稲荷大社や多くの酒蔵を有する「伏見エリア」、平等院鳳凰堂などを有する「宇治エリア」の3つのエリアにおいて、各エリアの由緒ある神社を巡るスタンプラリーが京阪電鉄の企画で実施されるなど、広域周遊観光のポテンシャルがある

石清水八幡宮エリア

伏見エリア

宇治エリア

出典：京阪ホールディングス株式会社HP



# 交通の現況(交通ネットワーク・アクセス)



# 市民の思い(過去に実施した市民アンケート・パブリックコメントより)

## 石清水八幡宮駅の周辺について

- 観光都市として駅前を活性化してほしい(R2)
- 京都への入り口として印象的な駅前になってほしい(R2)
- 食料品など日用品が揃うお店があったらいい(R2)
- おしゃれなカフェやレストランでゆっくりしたい(H30)
- 個人商店を呼び戻してほしい(H30)

## 観光について

- 観光客に宿泊してもらいたい(R5)
- 飲食バルなどの集客イベントを定期的開催してほしい(R5)
- 八幡でしか手に入らないものを販売するお土産物センターをつくり観光消費を増やしてほしい(R5)

## 自然について

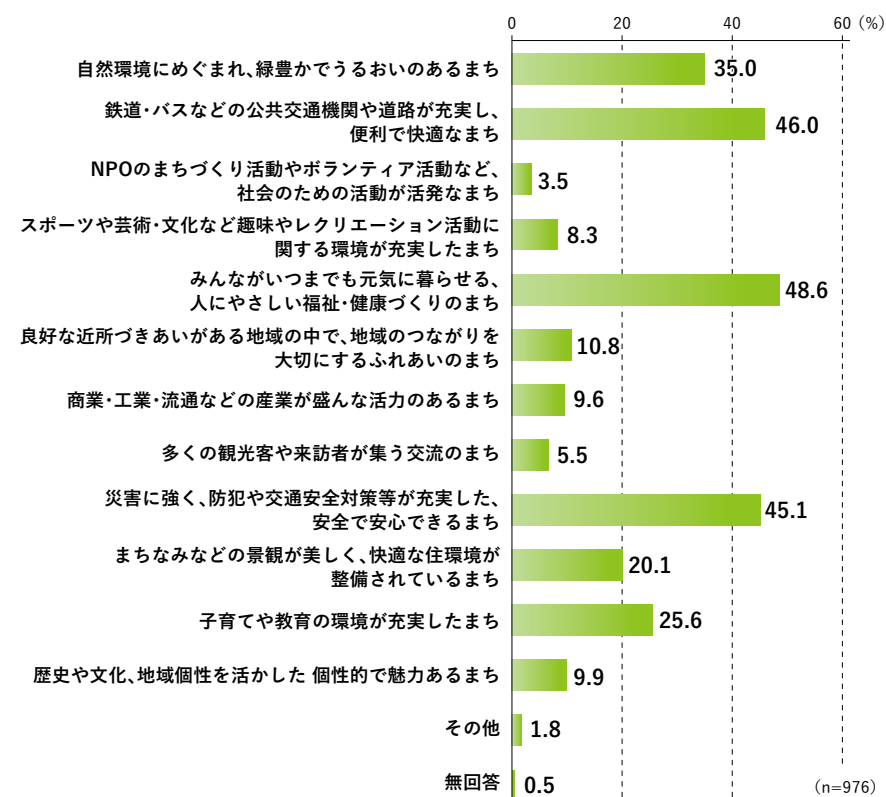
- 公園で健康づくりがしたい(R4)
- 鉄道駅の徒歩圏内に豊かな自然があるところがよい(R5)
- 市の散策ルートを作成してほしい。石清水八幡宮駅からはじまり、京阪鉄橋下を通り、安居橋などを経て駅へ帰ってくるルートなどはどうだろうか(R5)

## 情報の発信について

- ICTを活用して地域の歴史や文化を紹介するのはどうだろうか(H30)
- 「ヤワタカラ」を地域の外にもっと広めたい(R5)

## アンケート・パブリックコメント等の結果

- 石清水八幡宮とその駅前に関するコメントが多く寄せられ、特に石清水八幡宮駅周辺の再活性化に対する期待の高まりがうかがえる
- スーパーマーケットの誘致など地域に住まう人々の生活視点のコメントだけでなく、宿泊施設や集客イベントなど、観光視点のコメントも多数存在
- 「これからの八幡市に望むもの」のアンケートでは福祉や健康、交通便利性、自然、防災・防犯を望む声が多数を占める



参照:八幡市都市計画マスタープランに関する意見・質問等(H30)、『八幡市立地適正化計画』素案に対するパブリックコメント(意見・提案募集)の結果(R2)、八幡市のまちづくりのための「市民アンケート調査」(R4)、「八幡市観光基本計画(素案)」に対するパブリックコメント(意見募集)の結果(R5)

# 市民の思い(シンポジウム、市民ワークショップ、パブリックコメント)

## シンポジウム 石清水八幡宮駅周辺まちづくりシンポジウム(令和6年度)

【開催概要】八幡市がめざす「石清水八幡宮駅周辺のまちづくり」について、市民の皆さまとともに考え、一緒にまちづくりの取り組みを進めるためシンポジウムを開催しました。

日程 2025年2月16日(日)

会場 八幡市文化センター4階 小ホール

参加者 計210名

### 1

第1部の基調講演では、元株式会社伊勢福(おかげ横丁)代表取締役の橋川史宏様から「地域の魅力を引き出す町づくりを考える~伊勢の事例から~」をテーマに、伊勢の町に人が集まる理由と地域のポテンシャルを活かした町づくりに必要なステップについて講演をいただきました。

第2部「石清水八幡宮駅周辺の未来について」では、市が検討を進めている石清水八幡宮駅周辺ランドデザイン案の検討状況を川田市長から発表しました。

その後、パネルディスカッションでは、京阪電気鉄道株式会社代表取締役社長平川良浩様、大阪工業大学工学部建築学科特任教授岡山敏哉様、橋川様、川田市長が登壇し、「駅前のポテンシャルや可能性について」や「ランドデザインの実現に必要なこと」などをテーマに議論を交わしました。

### 2

## 市民の皆さまからたくさんのご意見をいただきました

### 主なご意見

観光・暮らしのコアゾーン	<ul style="list-style-type: none"> <li>●石清水八幡宮駅から一の鳥居までの道や、ケーブル乗り場にかけての道に、人が滞留し消費活動ができるスペースがあるとよいと思います。</li> <li>●お土産を買ったり、カフェでゆっくりできる駅前で過ごしたいです。</li> <li>●石清水八幡宮駅やケーブルカー駅、鳥居など駅周辺全体の景観を整備し、電車から見てワクワクする光景が広がるとよいと思います。</li> </ul>
自然共生アクティブゾーン	<ul style="list-style-type: none"> <li>●石清水八幡宮駅からおりてすぐ自然に入れるところが、駅の大きな魅力です。そこで子どもたちにのびのびと遊んでもらいたいです。</li> <li>●家族や友人とBBQなどを楽しみたいです。</li> <li>●川辺の木々、草花の管理を適切に行い、美しい背割堤を守りたいです。</li> </ul>
門前町魅力アップチャレンジゾーン	<ul style="list-style-type: none"> <li>●老朽化や後とり問題等で、シャッター街化が問題となっています。八幡市以外からも若者を呼び込み、新しい門前町を造っていくのはいかがでしょうか。</li> <li>●古き良き町並みをこれからも残していきたいです。</li> <li>●まちに統一感をもたらすような取り組みができればよいと思います。</li> </ul>
歴史と自然ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> <li>●放生川で子どもたちが遊べる様にしたいです。また、水辺で市民がくつろげる空間をつくりたいです。</li> <li>●展望台の整備によるビュースポットの確保や、石清水八幡宮のライトアップなどによる夜景も楽しみたいです。</li> <li>●石清水八幡宮の神仏習合に関する事など、八幡にまつわるストーリーを広く伝えたいです。</li> </ul>



## 市民ワークショップ 石清水八幡宮駅周辺の未来をみんなで考えよう

【開催概要】市の玄関口にふさわしい石清水八幡宮駅周辺を目指して「駅前から広がるまち」をテーマにワークショップを開催しました。

日程 2025年10月4日(土)／25日(土)  
会場 山柴公民館  
参加者 計50名

### 1 まち歩きを実施しました

まちを歩くことで、普段は気づかない、まちの良いところ・惜しいところをたくさん発見しました。



### 2 まちに対する思いを共有しました

まちの良いところ・惜しいところを参考に、目指すべき将来の八幡の姿から、今の私たちにできることを考えました。



### 3 市民の皆さまと考えたことをまとめました

※以下の内容は市民ワークショップにていただいたご意見であり、政策的に決定したものではありません。

	いいところ・惜しいところ	～First step～ まずチャレンジすること	～Future～ 将来実現したいこと
観光・暮らしのコアゾーン	<ul style="list-style-type: none"> <li>●情緒ある景観が残る</li> <li>●商店が少ない</li> <li>●駅前からの鳥居や男山などが見えない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●景観のルールを考える</li> <li>●民泊・カフェを運営する</li> <li>●朝市など各種イベントを開催する・参加してみる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●観光客も住民も楽しめるホットでできる駅前をしたい</li> <li>●バナーフラッグ等を活用し、情緒ある景観を形成したい</li> <li>●飲食店や、宿泊を伴う観光客が増える</li> </ul>
自然共生アクティブゾーン	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自然が豊富</li> <li>●自転車ルートが整備されている</li> <li>●防災施設を日頃から活用しておきたい</li> <li>●駅から背割堤や川が認識し辛い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●河川敷を有効活用する</li> <li>●ランタン祭りなど夜間のイベントを開催する</li> <li>●SUPなど河川で遊ぶ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●舟運を復活したい</li> <li>●自然を眺めながらカフェでゆっくりしたい</li> <li>●自然アクティビティで有名なまちにしたい</li> </ul>
門前町魅力アップチャレンジゾーン	<ul style="list-style-type: none"> <li>●歴史ある建物が多く残されている</li> <li>●魅力的な個人商店がある</li> <li>●今ある資源の保存・保全をする必要がある</li> <li>●空地・空き家の管理が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●道標をめぐり歴史に触れる</li> <li>●八幡の歴史を学んで、人に話せるようになる</li> <li>●謎解きウォーキングを開催する</li> <li>●まち歩きしてみる、カフェに行ってみる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●川沿い・古民家でカフェを運営できるようにしたい</li> <li>●飛行神社と連携してまちを盛り上げたい</li> <li>●石清水八幡宮につながる動線が整備できている</li> </ul>
歴史と自然ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> <li>●石清水八幡宮がある</li> <li>●石畳などが整備されている</li> <li>●川辺の居心地が良い・整備されている</li> <li>●ごみが多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学芸員さんや先生から歴史を学ぶ</li> <li>●観光ボランティアに参加する</li> <li>●「はちまんさん」探検コースを作成する、参加する</li> <li>●男山四十八坊跡を探してみる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●宿坊など、宿泊・体験できる場所がある</li> <li>●男山で地元の子もたちが遊び、成長する</li> <li>●男山に憩いスペースがある</li> <li>●男山四十八坊探索ルートでウォーキングを楽しんでいる</li> </ul>

## パブリックコメントの結果

ランドデザイン策定にあたり、令和7年2月に開催したシンポジウムや10月に開催した市民ワークショップでの意見やアイデアをいただき、ランドデザイン(素案)としてまとめました。

このランドデザイン(素案)について、市政への市民参画および広く市民の声を聴くため、パブリックコメント募集に関する指針に基づき、実施しましたところ、貴重なご意見、ご提案をいただきました。ご協力いただき、ありがとうございました。

**実施期間** 令和7年12月23日(火曜日)～令和8年1月12日(月曜日)

**募集方法** 郵送、ファックス、メール、まちづくり推進課窓口へ持参、専用フォームから提出

**募集結果** 意見等の提案者：5名／意見等の件数：12件



## 石清水八幡宮駅周辺まちづくりシンポジウム(令和7年度)

第1部の「石清水八幡宮駅周辺ランドデザインの発表」では、市民ワークショップ「石清水八幡宮駅周辺の未来をみんなで考えよう」の参加者が登壇し、計2回のワークショップを振り返り、その後、完成したランドデザインを川田市長から発表しました。

第2部の実践者による講演では、水辺のまち再生プロジェクト事務局の笹尾 和宏様から「まちの楽しみ方・過ごし方～より豊かな生活を愉しむためのスパイスの味わい方～」をテーマに、これまでのご自身の取り組み事例の紹介を中心に、まちで楽しみながら活動するにあたってのポイントについて講演をいただきました。

休憩時間には、シンポジウム参加者の皆さまを対象に、今回のランドデザインにふさわしいコンセプトを決めるための投票をしていただき、ランドデザインのコンセプトを決定しました。合わせて、取り組んでみたいFirst Stepについても投票を実施しました。

第3部のパネルディスカッションでは、笹尾様と市民ワークショップ参加者の赤木様、上田様、近畿大学総合社会学部総合社会学科教授田中晃代様、大谷大学社会学部コミュニティデザイン学科講師野村実様、川田市長が登壇し、これからの石清水八幡宮駅周辺のまちづくりについて熱い議論を交わしました。

日 程 2026年3月14日(土)

会 場 八幡市文化センター4階 小ホール  
参加者 計100名



# 社会潮流や変化の兆し

現在の変化の兆し、将来に想定される変化、期待される変化のキーワード

## 交流を生む駅前空間・駅と周辺の一体的整備

- 駅周辺地域は都市機能の立地や様々なアクティビティが展開される拠点、まちの顔として重要な役割を担うことが期待されている。
- 利用者の利便性向上に向け、駅、駅前広場、周辺市街地の一体的な再構築を推進すべきとされている。

(写真) 駅を含む面整備事業の計画段階から多くの関係者を巻き込み、広場を創出、歩行者・自転車交通が1.5倍に増加した事例(宮崎県日向市 日向市駅)

出典:国土交通省HP



## ウォーカーブル・回遊性向上

- 街路空間を車中心から“人中心”の空間へと再構築。
- 沿道と路上を一体的に使い、人々が居心地良く集い、憩い、活動できる場づくりが増加。
- モビリティの多様化が進み、効率的で持続可能な移動を目指す方向に変化。

(写真) 東京都丸の内仲通りにおける社会実験の様子  
出典:国土交通省HP



## スマートシティ・技術革新

- IoTやAI、ビッグデータ等の技術が都市インフラやエネルギー、交通、医療、行政サービスに導入され、市民の生活の質が向上。
- 地域の持続可能性、効率性、快適性を高めるための社会変化を誘引。

(写真) 国土交通省 スマートシティのイメージ

出典:内閣府HP



## サステナビリティ・環境配慮

- これまでに経験のない気候変動や資源の有限性に対する危機感を背景に、世界的に重要視。
- 環境負荷の低減を目指し、再生可能エネルギーの導入や脱炭素化の推進、資源循環型の経済へのシフトが加速。

(写真) 京都市四条堀川交差点に設置された雨庭

出典:国土交通省HP



## リノベーション・既存施設活用

- 空き店舗や空き家、駐車場、利用度の低い道路・河川・公共施設などを民間主導によるリノベーション事業等により活用し、都市機能の充実やコミュニティの活性化等を実現。

(写真) 3軒続きの長屋住宅を改修し、コミュニティレストラン・特産物販売店舗・展示・交流スペースとして活用している事例(広島県庄原市)

出典:国土交通省HP



## インバウンド増加・多文化共生

- 大阪における関西万博の開催やIR開業により、近畿圏のインバウンド観光客の増加。
- 外国人労働者や移住者の増加に伴い生活支援や言語サポート、多言語表記導入の必要性増加。

(写真) 男山公民館で開催された「多文化共生に向け 府知事と行き活きトーク」

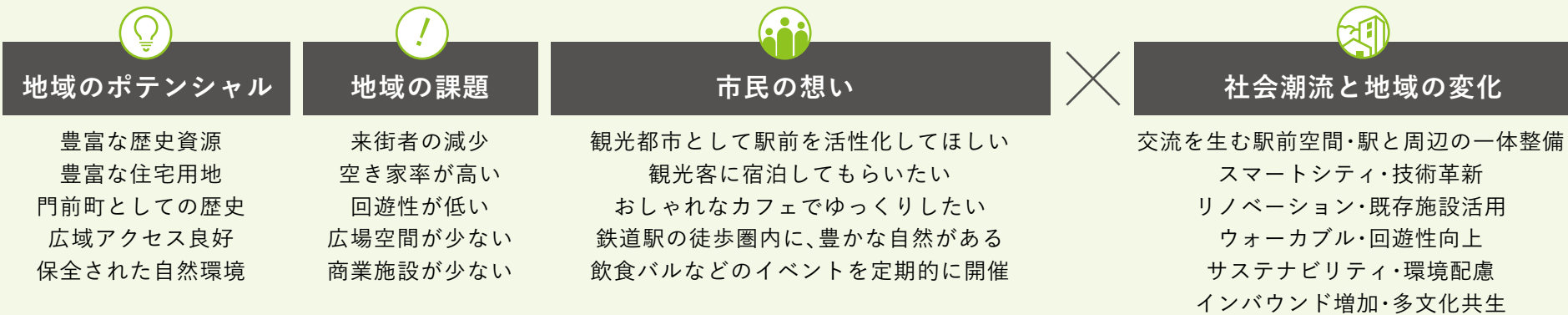
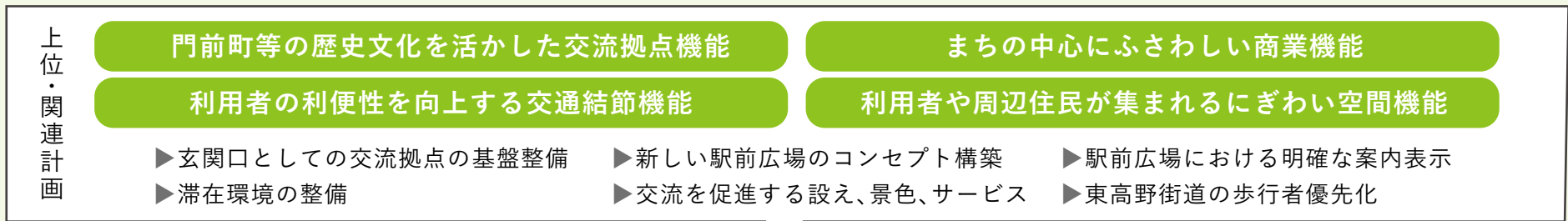




第3章

まちづくりの方向性・  
実現したいシーン

# まちづくりの方向性

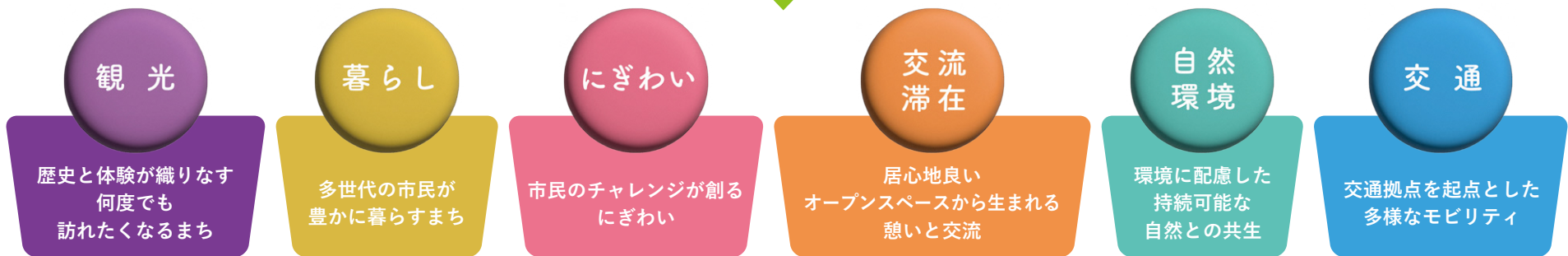


## まちづくりのコンセプト

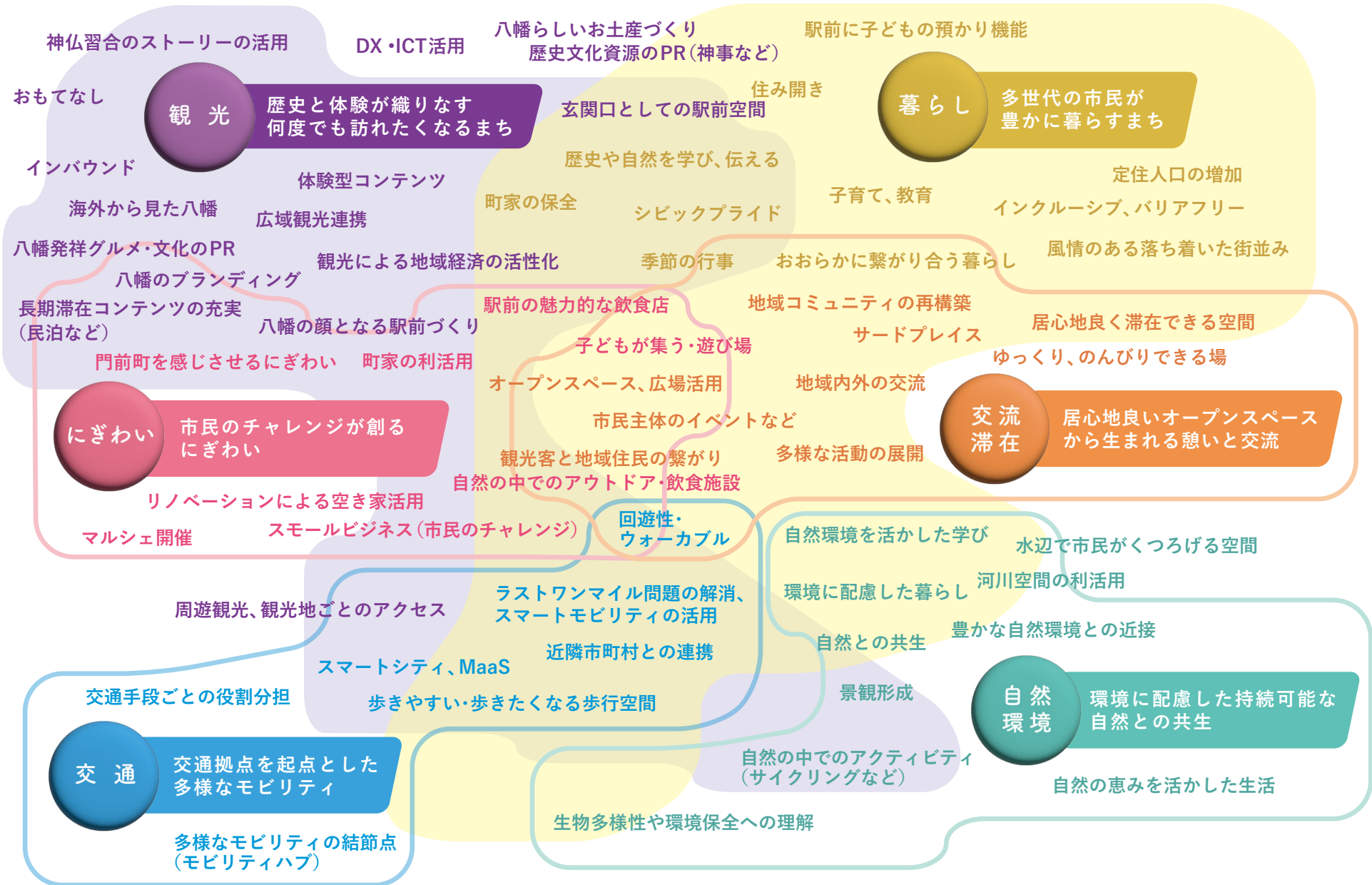
「感じる千年の歴史、未来照らす八幡。」

まちづくりの方向性

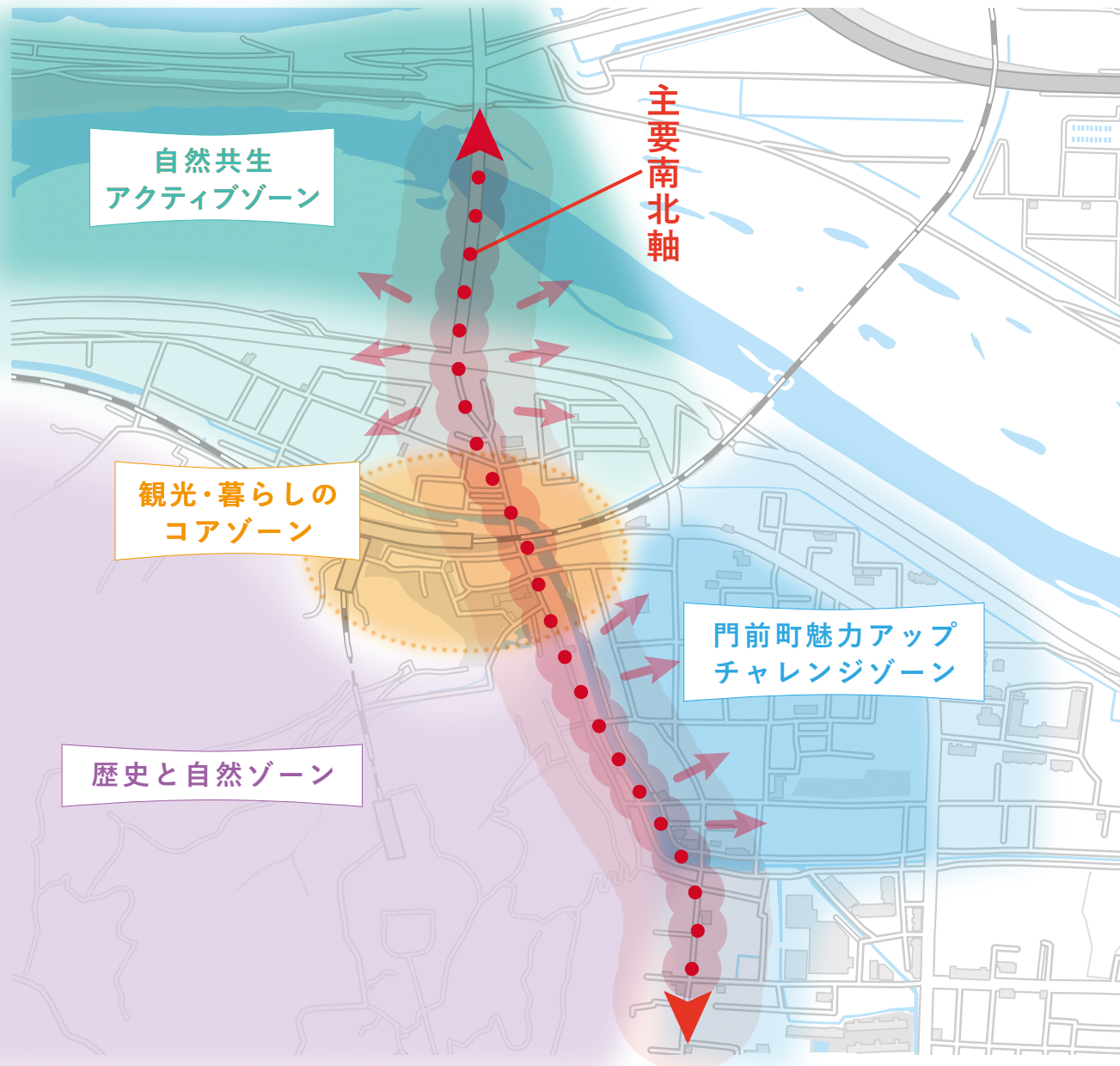
主なターゲット：周辺住民・八幡市民・来街者



# 【方向性ごとのキーワードや関係性】



## ゾーンごとの方向性



1

門前町としての発展や、まちの成り立ちを踏まえながら、石清水八幡宮駅前を中心に、地域の特徴に合わせてゾーン分けを行い、それぞれの将来イメージを設定しました。

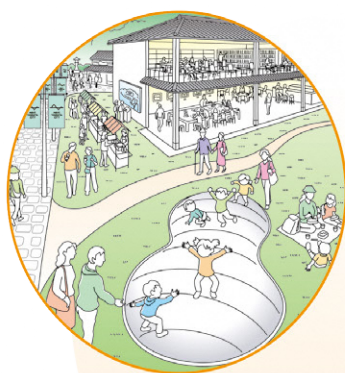
2

地域内住民の方々や観光客が利用する駅前エリアを、地域の核・顔・拠点となる「**観光・暮らしのコアゾーン**」として設定し、自然が近く市民の憩いの場となっている三川合流地点周辺を含む駅北側エリアを「**自然共生アクティブゾーン**」、東高野街道があり町家が多く立地、落ち着いた居住環境を有する門前町エリアを「**門前町魅力アップチャレンジゾーン**」、男山山麓の雄大な自然と、その自然と一体となっている石清水八幡宮をはじめとした歴史ある神社仏閣を含むエリアを「**歴史と自然ゾーン**」としました。

3

「**主要南北軸**」は各ゾーンを接続する主要な軸となりつつ、観光と地域の日常生活における交通機能の面で主要な動線・連携軸となるだけでなく、駅前を中心としたにぎわいを各ゾーンへ波及させる役割を担います。また、各ゾーンの特徴をふまえた景観形成を目指します。

## 【各ゾーンの将来像イメージ】各ゾーンの将来像は、以下のイメージを前提に作成しています。



- 多様で上質な店舗が立ち並び、市の玄関口として市の魅力が集積した魅力発信拠点となるイメージ。
- 市民の生活の質を向上させる施設(子育て支援施設、コワーキングスペースなど)や、自由に居心地良く滞在できるオープンスペースなど、豊かな暮らし・おもてなしの心を楽しむことができる空間となるイメージ。

### 観光・暮らしのコアゾーン

### 自然共生アクティブゾーン



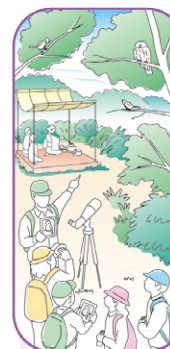
- 豊かな自然を活かした、五感を刺激する多種多様なアクティビティが展開されるイメージ。
- 散歩やジョギングを楽しむなど、男山と三川合流の自然を身近に感じ、四季の移ろいを味わいながら、生活を営むことができるイメージ。



- 歴史的な街並みを活かし、古民家をリノベーションした店舗や宿泊施設などが立ち並び、住民の生活利便性向上を図りつつ、生活環境を守りながらにぎわう空間となるイメージ。
- 空き家や駐車場などを活用した、誰もが気軽にチャレンジする場を提供することで、新しい魅力や地域内外の交流が生まれるイメージ。

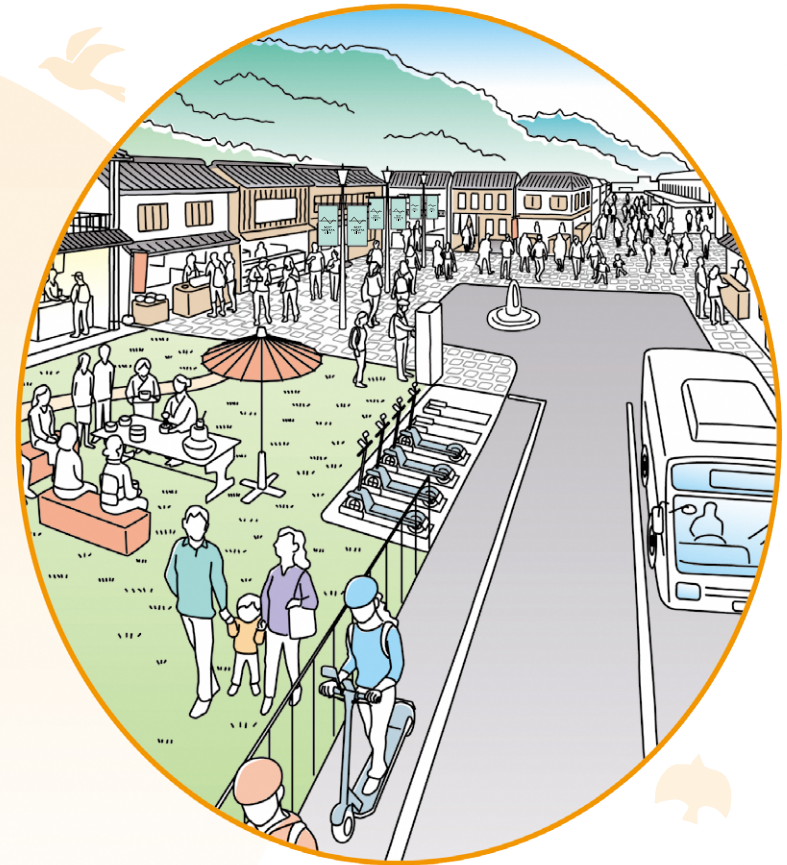
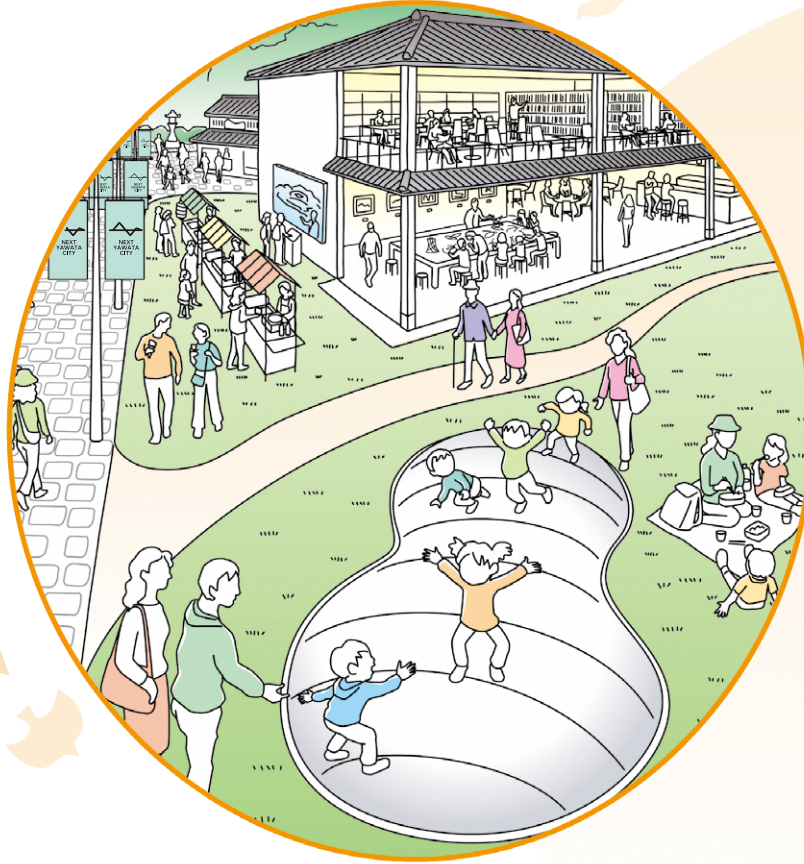
### 門前町魅力アップ チャレンジゾーン

### 歴史と自然ゾーン



- 先人たちが受け継いできた歴史や神仏習合のストーリーに加え、男山の自然環境や生態系を学び、未来へ伝承していくための中心的空间となるイメージ。
- 八幡市の顔と言える石清水八幡宮における市民イベントの実施や、石清水八幡宮などの祭事との連携により、より多くの人に八幡の魅力が伝わる空間となるイメージ。

# 将来まちで実現したいシーン



駅前エリア

## 観光・暮らしの

## コアゾーン

※現時点での将来イメージであり、確定しているものではありません。



歴史と体験が織りなす  
何度でも  
訪れたくなるまち

交通拠点を起点とした  
多様なモビリティ

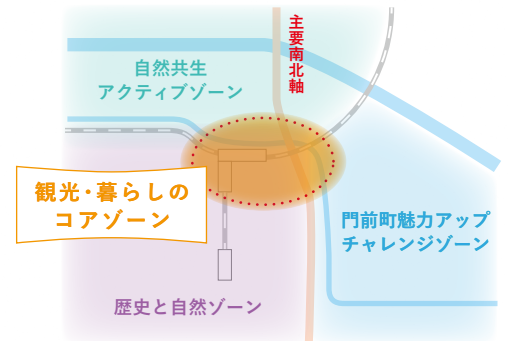
多世代の市民が  
豊かに暮らすまち

1

多様で上質な店舗が立ち並び、市の玄関口として市の魅力が集積した魅力発信拠点となるイメージ。

2

市民の生活の質を向上させる施設（子育て支援施設、コワーキングスペースなど）や、自由に居心地良く滞在できるオープンスペースなど、豊かな暮らし・おもてなしの心を楽しむことができる空間となるイメージ。



# Future

## 将来に実現したいこと

- 駅前の商業施設では季節ごとの銘菓や名産品を販売する店舗や、ご当地グルメを提供するカフェが軒を連ね、訪れるたびに新しい味覚を堪能することができる。
- 多様な交通手段が駅前に確保されることで、地元住民と観光客双方の回遊性が向上している。
- 観光について学んだ地元住民や学生に加え、留学経験を活かした学生が授業の一環としてガイドとなり、おもてなしの精神を発揮。誇らしげに八幡の魅力や観光・体験スポットを観光客に紹介している。
- 図書館やキッズルーム、カフェ、コワーキングスペースなどを有する多機能複合施設で、幅広い世代が読書や趣味、勉強、仕事などに没頭。またある人は、カフェでゆったりとした時間を楽しむ。
- 男山の景観に馴染んだ居心地の良いデザイン・色彩でリニューアルされた駅前のスペースでは、子どもたちが元気に遊んでいる他、お茶摘み体験と連携した茶道教室など、多様な体験型コンテンツが展開され、観光客と地元住民が談笑し、ホッとできる空間が形成されている。
- 門前町魅力アップチャレンジゾーンでのチャレンジを経て、駅前ですぐは屋台を展開。仕事帰りや買い物帰りの人々が思わずふらっと立ち寄る場となり、ちょっとした有名スポットに。

# First Step

## まずはここから 実現

- 駅前広場で実験的に仮設の屋台やキッチンカーを使ったマルシェや朝市等の各種イベントが開催されている。
- 地元の特産品が販売されるチャレンジショップでは八幡の魅力が発信され、観光客や地元住民でにぎわっている。
- 駅前の空きスペースに仮設した芝生広場では、バスを待っている人や気軽に立ち寄った人が、それぞれ思い思いの過ごし方をしている。読書やお昼寝、野点、ヨガ、お喋りなど。



## エリア概況、立地施設

- 石清水八幡宮駅に降り立つ来街者を迎える玄関口
- ケーブル八幡宮口駅に至る道沿いには観光案内所、飲食店、レンタサイクル店などが立地

魅力

- 比較的余裕のある駅前広場が立地
- 情緒ある景観が残る
- 川と山が近く、自然環境が豊か

課題

- 門前町の風情がなく、石清水八幡宮への行き方がわかりづらい
- 人気がなく、単なる通過点となっている
- 商店が少ない



※土地利用状況についてはP13参照

参照: H31八幡市都市計画基礎調査 (C) Esri Japan

### 参考事例 1 伊勢神宮おかげ横丁 (三重県 伊勢市)

約4000坪の敷地内には、伊勢志摩ならではの良質な食べ物屋やおみやげの屋が建ち並び、伊勢神宮の参拝客でにぎわっている。



### 参考事例 2 おにくる (大阪府 茨木市)

「育てる広場」をキーコンセプトに、ホールや図書館、子育て支援、プラネタリウム、市民活動センター、カフェ等が入る複合施設。連日多くの老若男女でにぎわう。



# 将来まちで実現したいシーン

II



駅北エリア

## 自然共生

### アクティブゾーン

※現時点での将来イメージであり、確定しているものではありません。



観光

歴史と体験が織りなす  
何度でも  
訪れたくなるまち



自然環境

環境に配慮した  
持続可能な  
自然との共生



交流滞在

居心地良い  
オープンスペースから生まれる  
憩いと交流

1

豊かな自然を活かした、  
五感を刺激する多種多様なアクティビティが  
展開されるイメージ。

2

散歩やジョギングを楽しむなど、  
男山と三川合流の自然を身近に感じ、  
四季の移ろいを味わいながら、  
生活を営むことができるイメージ。



# Future

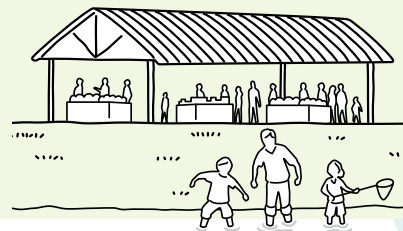
## 将来に実現したいこと

- 河川の絶景を楽しむ川上レストランで、地元の食材を使用した料理を提供。食事を楽しむ人々がテラス席で河川の風を感じながら食事をしている。春は背割堤の桜を一望できる。
- 観光客が川を一望できる部屋に宿泊！地元住民の八幡流おもてなしを受け、朝日を浴びながら川を眺める朝食を、昼は周遊クルーズに乗船、夜は大自然の下での星空を楽しみ、五感をフル開放！
- 一泊二日でSUP、ロードバイク、マラソンなどを楽しめるスポーツイベントが開催！はちまんさんのお膝元で豊かな自然の恵みを全身で感じた後は、自然の中でバーベキュー！地場野菜が美味しくて五感が満たされていく幸せを実感！
- 多様なスタディプログラムが用意され、小学生から大学生まで幅広い年代の子どもたちが課題探求型学習に取り組む。自ら石清水八幡宮周辺のまちを歩き、地域の住民と会話をし、自ら課題を発見！それに基づき、環境保護活動やまちの歴史など、それぞれ興味を持ったプログラムに参加して学びを深めている。
- 都市近郊自然アクティビティの聖地として有名になっている！
- 自然に恵まれた生活に憧れる人々が訪れ、交流し、暮らしている。

# First Step

## まずはここから 実現

- 家族や友人と一緒に、川沿いに設置されたリクライニングチェアやパラソルの下で、日光浴やバーベキュー、焙煎珈琲を楽しむ。
- 子どもと一緒に季節ごとの自然観察や環境教育ワークショップに参加。簡単な材料を使って、野草を使った料理やクラフトを体験。自然や生態系の循環を学ぶ。
- 御幸橋付近の防災施設(かまどベンチ・パーゴラ)を使って防災ピクニックを楽しむ！
- カヌーや川下りなどの河川アクティビティを楽しむ！



## エリア概況、立地施設

- ・桜の名所である背割堤や三川合流地点に隣接
- ・さくらであい館というサイクリストを中心ににぎわう交流施設が立地
- ・市営駐車場が立地

- 魅力**
  - ・自然と共生したアクティビティや暮らしが可能
  - ・自然が豊富
- 課題**
  - ・駅出入口がエリア内にないため、駅から当エリアへは踏切を通行する必要がある
  - ・大谷川が有効活用されておらず、低未利用の土地も多い
  - ・駅から背割堤や川が認識しづらい



※土地利用状況についてはP13参照

参照：H31八幡市都市計画基礎調査 (C)Esri Japan

### 参考事例 1 川床テラス (山口県長門市 長門湯本温泉)

川の流れてに包まれて、非日常的なひとときが楽しめるよう設置されたテラス。複数の事業者が季節に応じて趣向を凝らしたサービスを提供し、一部の時間帯は一般に開放。



### 参考事例 2 β本町橋 (大阪府 大阪市)

規制緩和スキームから生まれた新しい公共スペース。都心の水辺・公園を最大限活用し、「遊ぶ」「学ぶ」「働く」ことの可能性を広げるための施設。



# 将来まちで実現したいシーン

III



門前町エリア

## 門前町魅力アップ

## チャレンジゾーン

※現時点での将来イメージであり、確定しているものではありません。



観光

歴史と体験が織りなす  
何度でも  
訪れたくなるまち



暮らし

多世代の市民が  
豊かに暮らすまち

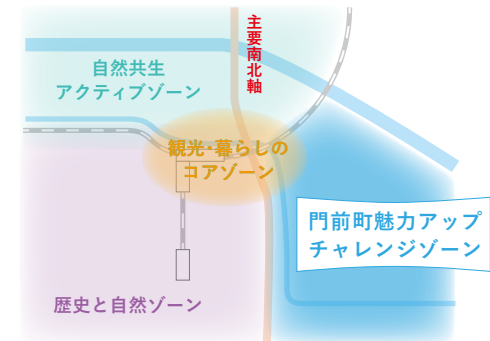


にぎわい

市民のチャレンジが  
創るにぎわい

1 歴史的な街並みを活かし、古民家をリノベーションした店舗や宿泊施設などが立ち並び、住民の生活利便性向上を図りつつ、生活環境を守りながらにぎわう空間となるイメージ。

2 空き家や駐車場などを活用した、誰もが気軽にチャレンジする場を提供することで、新しい魅力や地域内外の交流が生まれるイメージ。



# Future

## 将来に実現したいこと

- 地元出身の若いクリエイターや料理人が町家を活用したチャレンジショップに出店。地域のお客さんを増やして、いつか駅前にお店をオープンすることを目指している！
- 夏になると放生川の親水エリアにファミリー層が集まり、子どもたちが川遊びを楽しむ。お昼はリバーサイドカフェで川のせせらぎや安居橋を眺めながらランチをゆったりと楽しむ。
- 女子旅で八幡を訪れた大学生が、町家カフェで買った市特産のイチゴを活用した「一期(イチゴ)一会ラテ」を片手にエリア内の個性豊かなお店を巡りながら散策。門前町の風情を感じながら、お店や住民との一期一会を楽しみ歩いている。
- エリア内に立地する飛行神社をはじめとした神社仏閣と石清水八幡宮を結ぶ動線における景観形成とにぎわいの創出。
- 歴史ある町家と街並みの雰囲気憧れる人がお試し居住を開始！中には移住をした人も！訪れてみたい街から住みたい街へ！

# First Step

## まずはここから実現

- 手作り小物をつくっている私は、門前町の沿道でポップアップショップを出店。いつか駅前に自分の店を出すために、少しずつファンを増やしていきたい！
- 子どもと一緒に、空き駐車場を使った週末限定の夜市に参加。歴史的な街並みを楽しみながら、地元のクラフトやフードを堪能。子どもは昔遊びスペースでエンジョイ！
- 門前町魅力アップチャレンジゾーン内で共通する暖簾をみんなで作成し、軒先に掲げて雰囲気づくり！
- 八幡の歴史を楽しく教えあい・学び「こんなに素敵なおとこだよ！」と家族・友人・知人に自慢！



## エリア概況、立地施設

- ・歴史の息吹を感じることができる街並みが一部残存
- ・住宅地が立ち並び、八幡木津線沿道には大型スーパーやコンビニ・診療所などの生活利便施設や飲食店が立地する等、商業の中心

魅力

- ・伝統的町家が他エリアよりも比較的多く残り、史跡も住宅街に存在する等、歴史を感じることができる
- ・魅力的な個人商店が立地

課題

- ・かつての門前町のにぎわい、風情が失われ、シャッターを下ろしたままの店舗が存在
- ・空き家・空地・歴史資源の維持管理



※土地利用状況についてはP13参照

参照:H31八幡市都市計画基礎調査 (c)Esri Japan

### 参考事例 1 ホテルNIPPONIA 福住宿場町 (兵庫県 丹波篠山市)

重要伝統的建造物群保存地区に指定されているかつての宿場町、福住において築約250年、地域の名士の邸宅をリノベーションして宿泊施設として活用。



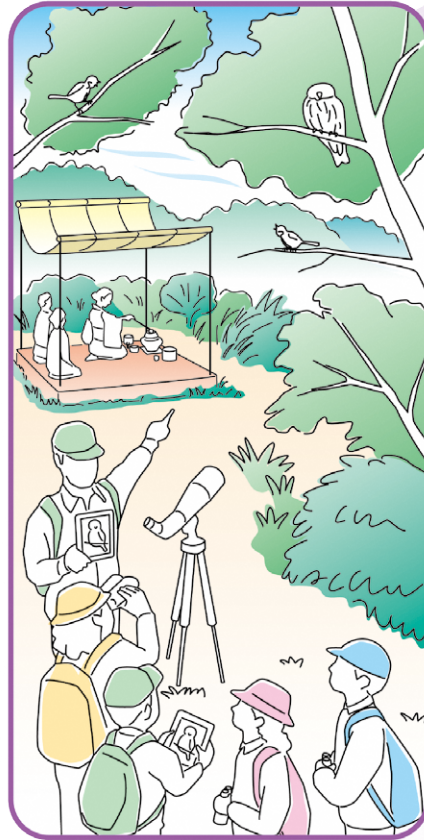
### 参考事例 2 京見屋分店 (島根県 隠岐郡 隠岐の島町)

店の中に島の内外、関係なく交流できるコミュニティスペースを設けた雑貨店。島の人・Iターン者・観光客等の笑いが絶えない現代の「風待ち港」。



# 将来まちで実現したいシーン

## IV

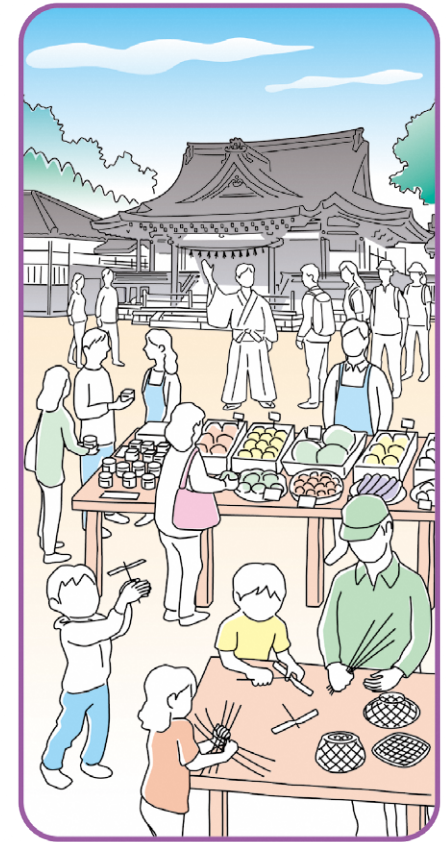


※現時点での将来イメージであり、確定しているものではありません。

### 自然ゾーン

### 歴史と

### 石清水八幡宮エリア



歴史と体験が織りなす  
何度でも  
訪れたいまち



環境に配慮した  
持続可能な  
自然との共生



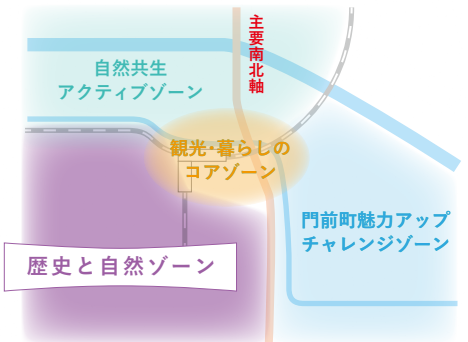
市民のチャレンジが  
創るにぎわい

1

先人たちが受け継いできた歴史や神仏習合のストーリーに加え、男山の自然環境や生態系を学び、未来へ伝承していくための中心的な空間となるイメージ。

2

八幡市の顔と言える石清水八幡宮における市民イベントの実施や、石清水八幡宮などの祭事との連携により、より多くの人に八幡の魅力が伝わる空間となるイメージ。



# Future

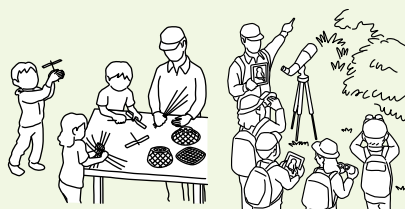
## 将来に実現したいこと

- 夏休みに家族で石清水八幡宮の境内にて宿坊ステイ。木々に囲まれた静かな環境の中で、神仏習合のストーリーを学ぶ。朝は近くのお寺で写経体験、凛とした空気の中で瞑想を行う。
- 高校生が放生川沿いで石清水祭の見学に合わせて、課題探求型学習として川の生態系保護プログラムに参加する。はちまんさんの麓において、歴史と自然をキャンパスに、自ら課題を見つけて学びを深めていくという、ここでしか得られない深い体験を得る。
- インバウンドの訪日観光客が、専門ガイドと共に石清水八幡宮や男山の歴史・自然を深く学び、体験するツアーに参加。ツアーでは神主・住職をはじめ、その他地元住民がガイドとして登場し、神仏習合や自然環境の保護活動について説明を受けた後、様々な文化体験もてなしを受ける。
- 小・中学生の子どもたちは男山の麓にいだかれた遊び場でのびのびと走り回り、思う存分遊ぶことで男山の魅力を知り尽くし、次の世代へ継承している。

# First Step

## まずはここから実現

- 歴史好きカップルは同日開催されている石清水八幡宮の神事と市民イベントに参加。歴史的な催しを体験しながら、地元食材や工芸品が立ち並ぶマルシェを満喫。
- 地元の親子が男山の麓で開催される自然観察ワークショップに参加。季節の植物や野鳥を観察し、自然の仕組みやエコシステムを学ぶ。
- 学芸員や先生による屋台型のモバイル・ミュージアムで歴史を学び、「はちまんさん」探検コースや男山四十八坊跡等を巡る探検コースを作ってみた後は、観光ボランティアに参加!
- 幅広い学びの場・発見の場として、自分の「好きなこと」「誰かに話したいこと」「ちょっと得意なこと」を誰かに聞いてもらう「みんなの八幡大学(仮称)」を開催。



## エリア概況、立地施設

- ・国宝・石清水八幡宮を中心として、泰勝寺や神應寺など神社仏閣が立地
- ・男山をはじめとした豊かな自然が保全されている

魅力

- ・石清水八幡宮の参道は男山の自然を身近に感じながら歩くことができるほか、放生川の川べりの居心地が良い
- ・徒然草に登場する高良神社等、歴史的資源が集積

課題

- ・宿泊施設が少なく日帰りの観光客が多い
- ・回遊性が低く、消費をする場所が少ない



※土地利用状況についてはP13参照

参照:H31八幡市都市計画基礎調査 (c)Esri Japan

### 参考事例 1 和泉國一之宮 大鳥大社 (大阪府 堺市)

実際に神職がご案内する境内ミニツアーで大鳥大社の歴史や由縁、神社にまつわる故事などを神職から聞くことができる。



### 参考事例 2 ESHIKOTO (福井県 永平寺町)

黒龍ブランドで知られる黒龍酒造が運営。酒造のお酒を核に、福井を中心とした北陸の食や文化を発信し、伝える複合施設。近隣にはオーベルジュを併設。





第4章

今後の進め方について

# 1 グランドデザインの実現プロセス

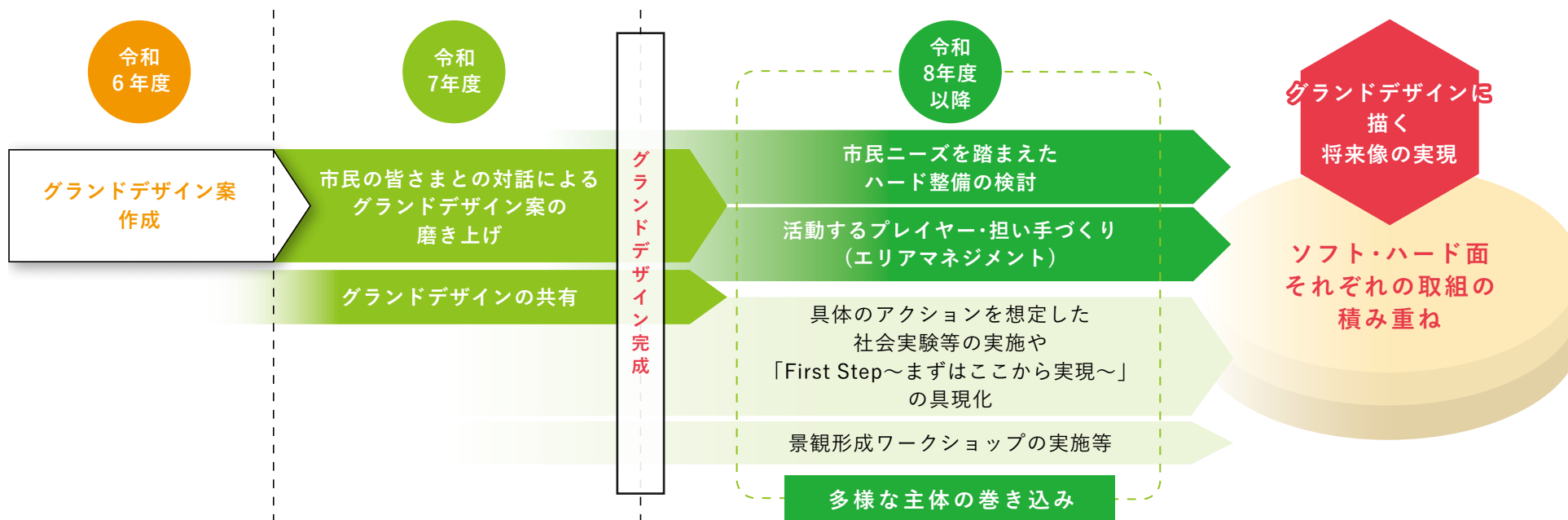
令和8年度以降においては、市民の皆さまを対象にしたワークショップ(以下、WS)や社会実験等を実施することで、グランドデザインに描く将来の絵姿について、より具体的なイメージを市民の皆さまに抱いていただくことを想定しています。

その上で、WSや社会実験等を通して得られた市民ニーズを踏まえたハード整備の検討を進めつつ、各ゾーンに記載した「First Step～まずはここから実現～」の具現化や、景観形成の検討等を進めていく予定です。

その過程においては、市民と八幡市だけではなく、石清水八幡宮駅に大きく関係する交通事業者やその他民間事業者等、幅広い関係者を巻き込みながら進めていくことになります。

そうした多様な主体との協働に基づくまちづくり・担い手づくり(エリアマネジメント)を進めていくことで、グランドデザインに描く将来の絵姿が実現することになると考えます。

さあ、このグランドデザインを持って、もっと石清水八幡宮駅周辺に繰り出してみませんか？



## 行政・市民・事業者の役割分担

ランドデザインに基づき、石清水八幡宮駅周辺におけるまちづくりを推進していくにあたり、市民・事業者・行政の役割を整理しました。





# 用語集

# 用語集

ページ	用語	説明
9	神仏習合	日本独自の宗教文化で、神道と仏教が結びつき、共存する信仰のかたちを指す。石清水八幡宮は、この神仏習合の色合いが強い社と知られている。
11	観光入込客数	主な観光施設を訪れた人数(宿泊客と日帰り客を含む)。
13	公共空地・オープンスペース	広場など、誰もが自由に活用できる空間のこと。行政が所有・管理するものに限らず、開かれた民有地など、公共的な機能を持った空間も含む。
13	低未利用地	空き地(青空駐車場や資材置き場など、利用の程度が低い土地のことを指す)及び空き家・空き店舗などが存する土地のこと。
15	ヤワタカラ	八幡市で生まれた特産品の中からデザイン・素材・歴史などを審査し、認定された、“やわたらしさ”が溢れる商品の地域ブランド。
19	ウォークブル	車中心の道路を見直して、歩行者がゆっくり散策したり、交流することができる空間などを整備することで、歩きたくなるような、人中心の道路空間を再構築し、利活用するまちづくりのこと。関西ではJR姫路駅から姫路城までの道のりや大阪市の御堂筋沿道における取組が有名。
19	スマートシティ	都市の抱える諸課題に対して、ICT等の最新技術やデータを活用しつつ、マネジメント(計画、整備、管理・運営等)が行われ、全体の最適化を図ることで生活利便性を向上させると共に、持続可能な発展を目指す都市のこと。
19	IoT	Internet of Thingsの略。さまざまなモノをインターネットに接続することで、データの収集や交換などを行う技術のこと。
19	AI	人工知能のこと。知的な機械、特に、知的なコンピュータプログラムを作る科学と技術のことを指す。茨城県常総市では大手自動車メーカーと協定を締結し、AIを搭載した小型の乗り物などについて実証実験を実施している。
19	ビッグデータ	スマートフォン等を通じた情報や、インターネット及びテレビでの視聴・消費行動等に関する情報、また、小型化したセンサー等から得られる膨大なデータのこと。
19	サステナビリティ	持続可能性を指す。有限である地球環境の中で、社会的・環境的な持続可能性と経済成長を両立させる概念のこと。

# 用語集

ページ	用語	説明
19	再生可能エネルギー	太陽光や風力、地熱などの自然の力を利用して生み出すエネルギーのこと。石油などの化石燃料と異なり、一度利用しても再生して繰り返し使うことができることから、持続可能な社会の実現に貢献するクリーンなエネルギーとして期待されている。
19	リノベーション	既存の建物に対して新たな機能や価値を付け加える改装工事のこと。
19	インバウンド	訪日外国人旅行者のこと。
19	アクティビティ	市民等が公共空間やオープンスペースなどを活用して行う活動のこと。
19	社会実験	新しい取り組みを本格導入したり、事業を実施する前に、限られた場所や期間で試行してみる。地域の人たちや行政、民間事業者などの幅広い主体が参加して、効果や課題を確認し、実際の実施に向けてより良い方法を見つけることを目的にしている。
23	シビックプライド	自分の街をより良くするために自分も関わっているという誇りを持つこと。自分が住んでいる場所を大切にし、より良い社会を作るために貢献しようとする想いのこと。
23	インクルーシブ	社会的包摂。年齢・性別・障害の有無・国籍・所得等に関わりなく、誰もが多様な価値観やライフスタイルを持ちつつ、豊かな人生を享受できる状態を指す。
23	サードプレイス	普段の自分自身が多くの時間を過ごす自宅や職場などとは異なる、居心地の良い場所のことを指す。具体的には、行きつけのカフェ、公園など。
23	スモールビジネス	大企業や行政ではカバーしきれない、ニッチなニーズや小さな課題に向き合った取り組みや事業のこと。
23	モビリティハブ	鉄道駅やバス停留所の周辺などで、カーシェアやシェアサイクルなどの様々な移動手段を集約する、乗り換えや乗り継ぎの結節拠点。
23	ラストワンマイル	公共交通機関の主要な駅やバス停から、最終的な目的地までの短い距離の移動が不便であることから生じる課題。
23	スマートモビリティ	IoTやAIを活用した新たなモビリティサービス。

# 用語集

ページ	用語	説明
23	MaaS	Mobility as a Serviceの略。ICT技術などを活用して、公共交通や地域のさまざまな生活サービスなどをシームレスに＝継ぎ目なく結びつける新たな移動の概念のこと。
23	生物多様性	地球上のさまざまな動植物や微生物が、バラエティに富んだ複雑で多様な生態系を、直接的・間接的に支え合って保ち、生きる状態を指す。この生物多様性が失われた場合、人間の生活にも大きな影響を与えることが明らかとなっている。
25	コワーキングスペース	さまざまな年齢・職種・所属の人たちが空間を共有しながら仕事を行うスペースのこと。
27	チャレンジショップ	街の空き店舗や空き家など(営業中の店舗などの一部の空きスペースを含む)を、新しくお店を開きたい人や曜日・時間帯を限定してお店を開いてみたい人たちに提供(もしくは低廉な家賃で賃貸)し、必要なサポートを行う取り組み。これにより、新しい商業活動が生まれ、街全体が活気づくことを目指す。
27	野点	のだて。屋外において周辺の風景を楽しみながらお茶を点てる(たてる)茶会のこと。
29	課題探求型学習	あらゆる事象の中から、興味を持った対象について、主体的・対話的・協働的に調査・分析・表現などを進め、学びを深めること。
29	ワークショップ	一般的に“体験型セミナー・会議”と言われ、参加者同士で話し合いながら、理解を深めたり、案を作り上げるための“会議の進め方”を指す。
29	クラフト	手作業で素材の特性を生かしながら物を作ること、またはその技術や作品。
31	ポップアップショップ	期間限定で駅の構内や市街地のイベントスペースなどに店出する形態の店舗のこと。元々は、アメリカをはじめ海外で使われていたPRの手法のひとつ。
33	オーベルジュ	Auberge。フランス語でレストランと宿泊場所を兼ねた施設を指す。宿泊せずに利用することも可能で、レストラン感覚で使用することもできる。
36	エリアマネジメント	主に、特定の地域における環境整備や活性化、魅力向上を目的とした取り組みを行うこと。具体的には、施設の管理や清掃、イベント運営などを行う。これを実施する主体がエリアマネジメント団体であり、行政や民間事業者、地域住民(団体)などが協力して運営をする。

「石清水八幡宮駅周辺  
まちづくり検討  
有識者懇談会」

委員の先生方からの  
メッセージ

# 「石清水八幡宮駅周辺まちづくり検討有識者懇談会」委員の先生方からのメッセージ



岡山 敏哉先生

計り知れない年月をかけて自然環境がつくられ、歴史が刻まれ、文化が育まれてきた、この地域のまちづくりについて、短い期間では到底語り尽くすことはできませんでしたが、このグランドデザインが今後の展開のきっかけとなることを切に願い、この地域を活性化させる、他に類を見ない高いポテンシャルをすべて包み込み、それらを最大限顕在化させ、受け継いでいくような「懐の深いまち」がつくられることを期待します。

大阪工業大学 工学部建築学科 特任教授  
八幡市都市計画審議会 会長



坂上 英彦先生

歴史を感じ、文化を創造する街づくりを目指してください。世界遺産に匹敵する石清水八幡宮を擁し、淀川水系の三川合流を背景にもつ素晴らしい立地にある石清水八幡宮駅前の街づくりは、国内外から多くの来訪者を迎えることができ、先進的な水と緑の環境に囲まれて、市民による新しい豊かな文化を創造できる可能性を秘めています。

行政の強いリーダーシップと市民、企業の参画により挑戦すれば、必ず実現できます。

嵯峨美術大学 名誉教授  
八幡市観光基本計画推進協議会 会長



田中 晃代先生

市民や事業者、企業、市などの多様な立場や世代を巻き込みながら、まちの魅力を最大限に生かしたまちづくりが望まれます。まちかどには、人の暮らしや思い等の記憶がいっぱい溢れています。まちに対する愛着・誇り・共感いわゆる「シビックプライド」を広げる活動やマネジメントを心がけてください。

ぜひ、この地から、記憶を大切にしたいまちづくりのムーブメントを起こしてください。

近畿大学 総合社会学部総合社会学科  
環境・まちづくり系専攻 教授  
八幡市都市計画審議会委員  
八幡市地域公共交通会議委員



野村 実先生

今回、私は主に地域公共交通政策の観点から、グランドデザインの作成に関わる機会を頂きました。石清水八幡宮駅周辺は、移動のハブ＝中心となる地域であるとともに、豊富な歴史・自然・観光資源を有していることも改めて認識した次第です。

次のステップは、市民の皆さまと一緒に考えていく段階であると考えています。皆さまと楽しく対話しながら、駅周辺の活性化と八幡市の未来を考えるアイデア出しや、そのサポートができればと思います。ぜひとも引き続き、八幡市民の皆さまのお力になれば幸いです！

大谷大学 社会学部コミュニティデザイン学科 講師  
八幡市地域公共交通会議委員



